

2023年 11月 19日 《 収 穫 感 謝 礼 拝 》

主 日 礼 拝

司 会 ②白川 達男兄

奏 楽
祈 禱 ②小山美枝子姉

賛 美 聖歌466番「かわけるわれは」
～大いなる方に～

ヤベツの祈り

聖書朗読 ルカによる福音書18章1～8節

特別賛美 ボーマン先生ご夫妻（甲子園ミッション30周年記念集会より）

メッセージ 「リバイバルの火を継続して求め続ける」
石井 潤 牧師

献 金 聖歌322番 「まげやたねを」

頌 栄 賛美「勝利・感謝・主に栄光」

祝 禱

お知らせ 〔司会者〕

賛 美 「平和はじめて知った」

☆礼拝にお越しくださった皆様を心よりご歓迎いたします！☆
《今週のお知らせ》

★今朝は「収穫感謝礼拝」。恵みの主に感謝！第二礼拝後の大掃除ご協力下さい。

☆今週の祈り会：○早天祈祷会、明朝6時。◎木曜：午前10時半／夜7時半。

大和祈祷会映像（WOGA 集会は来週木曜）。○準備祈祷会：土曜夜8時。

★来週の日曜礼拝の司会は白川兄、祈祷は石井兄。午後は聖歌隊の練習です。

★☆一年に一回聖書を完読できる！ Bible Reading Plan [11/19- /26]

Date	日	月	火	水	木	金	土	日
聖書箇所	エゼキエル 17-19	20- 21	22- 23	24- 27	28- 31	32- 33	34 -36	37- 39
チェック	〇〇〇	〇〇	〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇	〇〇〇	〇〇〇

「リバイバルの火を継続して求め続ける」

～甲子園ミッションから30年～

「このやもめは私をいつまでも煩わせるから、彼女を弁護して(守って)〈彼女のためにあだを返して〉やろう。そうしないと、彼女は絶えず来て、私を耐えられないほど困らせる〈疲れ果てさせる〉かもしれない〈最後には彼女が来て、私をののしる《私に襲いかかって、私を絞め殺す》かもしれない〉」ルカによる福音書18章5節〔詳訳聖書〕

1993年11月5～7日兵庫県西宮市にある甲子園球場にて、「全日本リバイバル甲子園ミッション」が開催されました。私は当時大学2年で、教会の友人たちと三日間参加しました。甲子園球場のような大球場での集会は日本でもあまり行われなような特別な集会であったと思います。その次の年の1月には、関東でも、東京ドームで「ピリー・グラハム国際大会」が行われました。このことも後にも先にもないような大きな日本の伝道の一頁に数えられる出来事となったと言えます。それ以降、日本武道館でも、リバイバルミッション(1998年)、ピリー・グラハム師の息子のフランクリン・グラハム師を迎えての伝道大会(2015年)も行われました。

今年甲子園での集会から30年の節目の年ということで、先日11日に甲子園球場がある西宮市の活けるキリストー麦教会(下條先生)で記念の集会が行われました。その中で、滝元順先生が二人目のメッセンジャーとして講壇に立たれました。順先生は、「神様が与えられたリバイバルの炎は、2000年前のペンテコステでなされたことを始まりとして、全歴史を通じて、神様がその火を世界中にそれぞれの時代に、人から人、国から国へと受け継ぐようにして継続してくださった」と解説されました。そして、この30年という短い歴史の中においても、次の世代へと、リバイバルの火を送られていると語られました。集会が大きい小さいかということや組織や人間の功績ではなく、神様ご自身が全歴史の中で、すべてを相働かせて救いの業を広めてくださっていることを何度も強調されていました。特に目に見えない「霊の戦い」ということが、1990年代から日本のキリスト教界全体でも意識されはじめたことを過去の文書からご紹介されました。

私たちはもっと、目に見えない霊的な世界に対して、具体的に意識して、また、理解して、信仰をもって立ち向かって行かなければなりません。敵である悪魔は、私たちを真実から、信仰から引き離そうと必死です。自分で意識して、神様に切なる求めを持って祈っていかないと、いつの間にか神様との関係が弱められて、眠ったような信仰になってしまう恐れがあります。この時代、信仰の世界を他のものとすり替えるかのような誘惑があることを感じます。

盲人のバルテマイが、目の前をイエス様が通り過ぎようとしたことを理解したときに、火がついたように求めたように、主に向かって熱く求め続けていきたいと願います。

「求めて来る者に聖霊を下さらないことがあろうか(ルカ11章13節)」と言われる主に、熱心に聖霊様を求めて行きましょう！聖霊様が私たちを燃やしてくださいます！